INON

イノン L 型光 D ケーブル・キャップ W27 セット クリアフォトシステムフィルム付

イノン製品のお買い上げ有難う御座います。

イノン L 型光 D ケーブル・キャップセット シリーズは、マリンスノー現象、及びゴースト/フレアの発生を有効に抑制する、「イノン クリアフォトシステム(PAT.P.)」を採用した、対応するデジタルカメラハウジング/マウントベースと弊社デジタルカメラ対応ストロボとを接続する光接続ケーブルです。

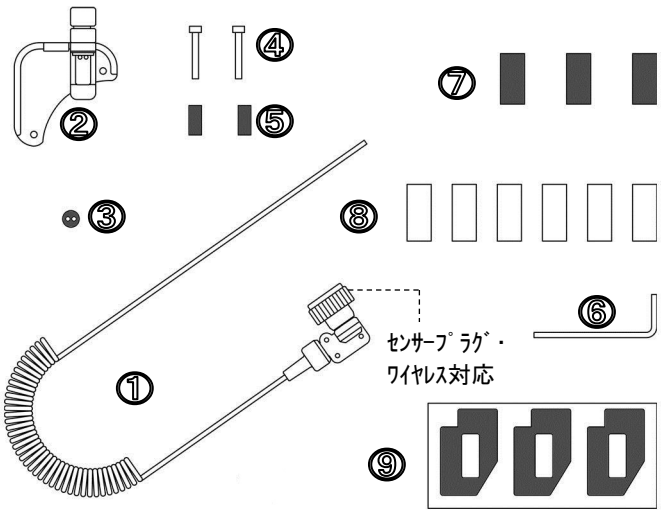
本キャップ W27 セットは、キヤノン社のデジタルカメラ用純正ハウジング「WP-DC19」と弊社「AD マウントベース・DC19/27」、「WP-DC7」と弊社「AD マウントベース・DC7」、或いは、富士フイルム社のデジタルカメラ用純正ハウジング「WP-FXF30」と弊社「AD マウントベース・FXF30」を組み合わせたシステム専用となります。

製品の主な特徴

- 光ファイバーを用いた[光 D ケーブル接続]により、従来のワイヤレススレーブ接続に比べ、水面直下や逆光といった外光の多い条件下でも、より確実にスレーブ発光を可能としています。
- [クリアフォトシステム]を採用して、[光 D ケーブル接続]の確実性を維持しつつ、フロントボディの透明な純正ハウジングの欠点であった、デジタルカメラ内蔵ストロボによるマリンスノー現象、及びゴースト/フレアの発生を効果的に抑制し、クリアな画像を得る事が可能です。
- デジタルカメラシステムを拡張する為のコアパーツ、弊社マルチパーパスベース「AD マウントベース」に直接取り付け可能。簡単/確実/コンパクトに外部ストロボとの接続を行う事が可能です。
- ストロボとの接続に使用する「L 型光 D ケーブル」を 2 本まで固定可能な為、2 灯システムにも容易に対応可能です。

製品内訳 :

- L 型光 D ケーブル ① ×1
- キャップ W22/W27/W30/W31/W44/W49/W50・遮光板ユニット本体 ② ×1
  - 光ガイドキャップ W3/W17/W22/W27/W30/W31/W34/W44/W49/W50 ユニット ×1
    - 光ガイドキャップ WL ×1
    - 光ガイドミラー L ×1
    - キャップ固定ダイアル ×1
    - 光ファイバ固定ダイアル ×1
    - 光ファイバ固定ゴム ×1
  - 遮光板・右 ×1
- 予備光ファイバ固定ゴム ③ ×1
- キャップネジ ④ ×2
- スペーサー ⑤ ×2
- 六角レンチ ⑥ ×1
- クリアフォトフィルム ⑦ ×3
- 保護フィルム ⑧ ×6
- フィルムシール ⑨ ×3
- 使用説明書(本書) ×1



対応カメラハウジング/マウントベース (2018 年 5 月現在) :

- キヤノン WP-DC19 ＋ イノン AD マウントベース・DC19/27
- キヤノン WP-DC7 ＋ イノン AD マウントベース・DC7
- 富士フイルム WP-FXF30 ＋ イノン AD マウントベース・FXF30

接続対応ストロボ (2018 年 5 月現在) :

L 型光 D ケーブルをそのまま、取付け可能な機種(ワイヤレス〝対応〟ストロボ)

- イノン Z-330、S-2000、Z-240【Type4】、D-2000【Type4】

L 型光 D ケーブルのセンサープラグを、「センサープラグ・ワイヤレス非対応」(別売)へ交換する必要がある機種 (ワイヤレス〝非対応〟ストロボ)(※)

- イノン Z-240【Type3/Type2/Type1】、D-2000【Type3/Type2/Type1】
  D-2000W、D-2000Wn、D-2000S、D-180、D-180S、Z-220F、Z-220、Z-220S
- イノン TTL 調光センサー Z ＋ イノン Z-22
- イノン TTL 調光センサー SB ＋ 対応する TTL オートストロボ
- イノン TTL 調光センサー YS ＋ 対応する TTL オートストロボ
- イノン フォーカスライトコントローラー ＋ イノン Z-220F/Z-220S/Z-220/Z-22

「センサープラグ・ワイヤレス非対応」
【別売】

(※) 交換方法に付いては、「センサープラグ・ワイヤレス非対応」付属の「ストロボ側 L 型コネクタ仕様変更手順書」をご参照の上、センサープラグの交換を行ってからご使用下さい。

接続方法　：　本製品による光 D ｹｰﾌﾞﾙ接続には、以下の 4 ﾊﾟﾀｰﾝが可能です。撮影条件やご使用用途により、適宜お選び頂けますが、通常は(A)接続をお勧め致します。

(A) **遮光板使用・ｸﾘｱﾌｫﾄ接続**　：ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑを用いた通常の接続法。(※)　【第一選択】

(B) **遮光板使用・従来接続**　：ｶﾒﾗ単独での撮影(内蔵ｽﾄﾛﾎﾞ ON)を行う場合が多く、その都度ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑを外す事が困難な場合。(※※)　【第二選択】

(C) **AD ﾏｳﾝﾄﾍﾞｰｽの拡散板を使用・ｸﾘｱﾌｫﾄ接続**　：遮光板を使用する事が困難な場合。(※)　【特殊用途】

(D) **AD ﾏｳﾝﾄﾍﾞｰｽの拡散板を使用・従来接続**　：ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑを用いない接続法。ﾏｸﾛ撮影などの際、ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞ光を使用したい場合に選択します。(※※)　【特定用途】

※：　ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑのご使用には、ﾀﾞｲﾋﾞﾝｸﾞ毎の点検、及び劣化前の交換が必要です。消耗品である、ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ/保護ﾌｨﾙﾑが劣化した状態のまま撮影を続けると、ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞ部も同様に劣化する場合があります。ご留意下さい。詳細は本書“ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ/保護ﾌｨﾙﾑの点検作業について”の項をご確認下さい。

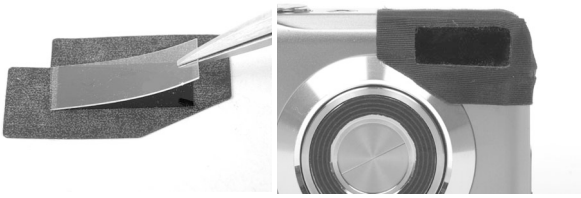
※※：ﾏｸﾛ撮影でｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞ光を使用したい場合や、上記ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑの点検/交換が面倒な場合のみ。ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑを使用しない事により、調光精度が低下したり、組み合わせるｵﾌﾟｼｮﾝによっては得られる画像に問題点が発生する場合があります。ご留意下さい。詳細は本書末の囲み記事をご確認下さい。

取り付け方法　：

・ **ﾌｨﾙﾑﾕﾆｯﾄを準備をし、ｶﾒﾗに装着します**

接続法(A)/(C)のみ

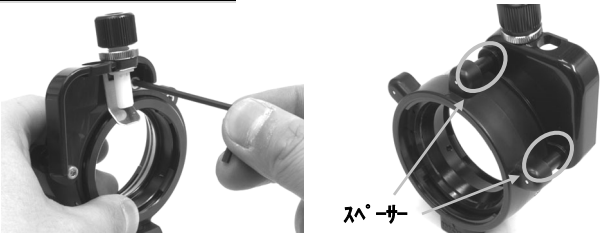
粘着面を上にしたﾌｨﾙﾑｼｰﾙに、ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ(黒色)、保護ﾌｨﾙﾑ(透明)各 1 枚を順に貼り付けます。保護ﾌｨﾙﾑ(透明)はｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞを保護する為の物ですので、ｽﾄﾛﾎﾞに接する側(内側)に貼り付けて下さい。作成したﾌｨﾙﾑﾕﾆｯﾄを、ｶﾒﾗの形状に合わせて、内蔵ｽﾄﾛﾎﾞ部へ貼り付けます。



・ **ｷｬｯﾌﾟ W22/W27/W30/W31/W44/W49/W50・遮光板ﾕﾆｯﾄ本体を取り付けます。**

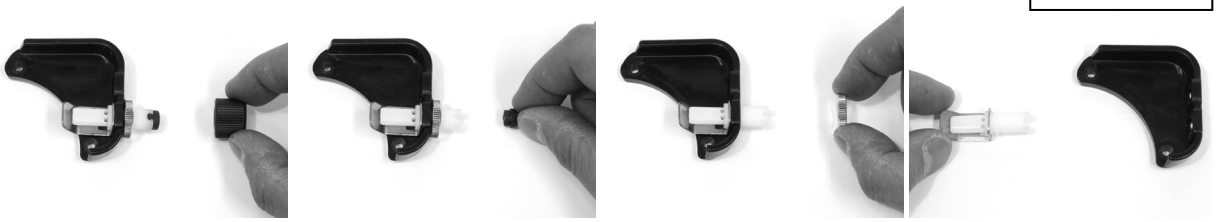
接続法(A)/(B)のみ

各 AD ﾏｳﾝﾄﾍﾞｰｽの拡散板を、付属の六角ﾚﾝﾁを用いて取り外した後、付属のｷｬｯﾌﾟﾈｼﾞ/ｽﾍﾟｰｻｰでｷｬｯﾌﾟ W22/W27/W30/W31/W44/W49/W50・遮光板ﾕﾆｯﾄ本体を取り付けます。
必ず右画像の位置にｽﾍﾟｰｻｰを挟んで下さい。
強く締め過ぎると、遮光板が破損しますので、ご注意下さい。



接続法(C)/(D)のみ

光ﾌｧｲﾊﾞ固定ﾀﾞｲｱﾙ、光ﾌｧｲﾊﾞ固定ｺﾞﾑ、ｷｬｯﾌﾟ固定ﾀﾞｲｱﾙの順に外し、光ｶﾞｲﾄﾞｷｬｯﾌﾟ WL と光ｶﾞｲﾄﾞﾐﾗｰ L を取り外した後、逆の手順で AD ﾏｳﾝﾄﾍﾞｰｽの拡散板に取り付けます。
拡散板/遮光板に光ｶﾞｲﾄﾞｷｬｯﾌﾟを取り付ける際には、拡散板/遮光板に開いている 2 つの穴の内、ｶﾒﾗ側から見て右側の穴に取り付けて下さい(右画像矢印)。



・ **AD ﾏｳﾝﾄﾍﾞｰｽをﾊｳｼﾞﾝｸﾞへ取り付けます**

接続法(A)/(B)/(C)/(D)

AD ﾏｳﾝﾄﾍﾞｰｽ付属の使用説明書を参考にして、ﾊｳｼﾞﾝｸﾞへ取り付けます。

・ **L 型光 D ｹｰﾌﾞﾙを取り付けます**

接続法(A)/(B)/(C)/(D)

光ﾌｧｲﾊﾞ固定ﾀﾞｲｱﾙを左図の様に回して緩めてから、光ﾌｧｲﾊﾞ固定ｺﾞﾑの穴にL 型光Dｹｰﾌﾞﾙのｹｰﾌﾞﾙ断端側を差し込み、奥まで達している事を確認後、光ﾌｧｲﾊﾞ固定ﾀﾞｲｱﾙを捩じ込んで固定します。L 型光 D ｹｰﾌﾞﾙは 1 本のみでも、2 本同時でも、どちらでも固定する事が可能です。
L 型光 D ｹｰﾌﾞﾙのｹｰﾌﾞﾙ側断端の取付が終了した後、ｺﾈｸﾀ側をｽﾄﾛﾎﾞのｾﾝｻｰ部に取り付けます。

使用上の注意　：

- L 型光 D ｹｰﾌﾞﾙは超耐久仕様(最小曲げ半径 2mm)となっておりますが、***それ以上曲げたり、強い刺激が加わったりすると、内部で折れる可能性があります。***また、***長時間曲げたままにすると形状が記憶されてしまいます。***正常に信号が伝わらなくなりましたら、ｵﾌﾟｼｮﾝの「交換用光ﾌｧｲﾊﾞｰ･L 型光 D ｹｰﾌﾞﾙ/L 型光ｹｰﾌﾞﾙ M 用」と交換して下さい。
- L 型光 D ｹｰﾌﾞﾙをﾊｳｼﾞﾝｸﾞやｽﾄﾛﾎﾞに接続した状態で、ｹｰﾌﾞﾙを持ってそれらを持ち運ぶなどすると、光ﾌｧｲﾊﾞが L 型ｺﾈｸﾀから外れたり、ｽﾄﾛﾎﾞ/L 型ｺﾈｸﾀ/光ﾌｧｲﾊﾞｰ等が破損する恐れがあります。このような扱いは避けて下さい。
- ﾌｨﾙﾑｼｰﾙ、ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ、保護ﾌｨﾙﾑは複数回の使用が可能です。陸上での使用等、ﾌｨﾙﾑﾕﾆｯﾄを取り外した際には、ﾌｨﾙﾑｼｰﾙの台紙に張り戻して保存する事をお勧めします。
  ﾌｨﾙﾑｼｰﾙの粘着力がなくなった/ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑが破損した等、交換が必要な場合には、ｵﾌﾟｼｮﾝの「ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ 光 D ｹｰﾌﾞﾙ･ｷｬｯﾌﾟ 3/W3/W22/W27/W29/W33/W34/W36 ｾｯﾄ用」をご使用下さい。

ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ/保護ﾌｨﾙﾑの点検作業について　：

- ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑは赤外線のみを透過させるﾌｨﾙﾀｰであり、通常は内部に熱を蓄積する事はありませんが、当製品は基本的に消耗品であり、使用を繰り返す事により赤外線の透過性能が低下します。
  ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞの発光回数一回当たりの発光量が、他機種と比べて大きいﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗにてｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑをお使い頂く場合、あるいは、(弊社ｽﾄﾛﾎﾞにはｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾞｷｬﾝｾﾙ回路が搭載されており、一般的なご使用条件では発生する事はないと考えられますが)ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞを常にﾌﾙ発光させるような場合は、発光時の熱による劣化が相対的に著しくなり、使用を重ねる事で焼け/溶解といった現象を起こし、光を透過させない状態となります。
  この状態のままご使用を続けられますと、ｶﾒﾗ内臓ｽﾄﾛﾎﾞﾕﾆｯﾄ内部に熱が蓄積され続け、結果的にｶﾒﾗ本体の内蔵ｽﾄﾛﾎﾞﾌﾟﾘｽﾞﾑ部に熱変形が生じる恐れがあります(※)。

> - **ﾀﾞｲﾋﾞﾝｸﾞ後必ず[ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ/保護ﾌｨﾙﾑ]の状態をご確認頂き、[ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ/保護ﾌｨﾙﾑ]に焼け/溶融の兆しが発生する前に新品と交換して下さい。**
> - **[ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ/保護ﾌｨﾙﾑ]の劣化を抑えるため、ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞがﾌﾙ発光するような状況での撮影はなるべくお控え下さい。**

- 当現象を回避するために、弊社製ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑを貼付けてご使用頂く場合[接続法(A)/(C)でご使用頂く場合]、必ず、下記要領にてご使用毎の点検/交換作業、及びご使用状況の確認を行って下さい。

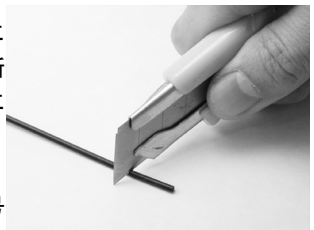
- ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑを使用せずにご使用頂く[接続法(B)/(D)でご使用頂く]事で、ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ/保護ﾌｨﾙﾑの定期的な点検/交換作業を必要とせずにご使用頂く事が可能となります。
  但し、ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑを使用した場合に比べ、調光精度が低下したり、組み合わせるｵﾌﾟｼｮﾝによっては得られる画像に問題点が発生する可能性があります。ご留意下さい。各制限事項の詳細は、本使用説明書末の囲み記事をご参照下さい。[接続法(D)]より、該現象を抑制可能な[接続法(B)]でご使用される事をお勧めします。

※ 2014 年 4 月現在、ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞの発光回数一回当たりの発光量が他機種と比べて大きい C-5060WZ/C-7070WZ の 2 機種においてのみ、該現象の発生を確認しており、その他機種での該現象の発生は確認しておりませんが、ご使用条件等によっては、同様な症状が発生する可能性があります。ご留意下さい。

ﾒﾝﾃﾅﾝｽについて　：

- ご使用後は、真水中(30℃以下)に数時間静置して塩分等をよく取り除いた後、ｴｱｶﾞﾝ等で水滴を吹き飛ばし、直射日光の当たらない、風通しの良い場所に置き、乾燥させて下さい(完全乾燥には数日掛かります)。
- 特に***光ｹｰﾌﾞﾙ両端の光ﾌｧｲﾊﾞｰ断面は、ｷｬｯﾌﾟ W22/W27/W30/W31/W44/W49/W50･遮光板ﾕﾆｯﾄ本体から外した状態で丁寧に洗い、塩分を良く落して下さい。光 D ｹｰﾌﾞﾙの断面に傷が付いたり、塩分が残留して曇ってしまったりすると、信号がうまく伝わらなくなる場合があります。***

- 取り外したｷｬｯﾌﾟ W22/W27/W30/W31/W44/W49/W50･遮光板ﾕﾆｯﾄ本体は、構成部品を無くさない様注意して下さい。
- 上述の理由等で信号が伝わり難くなった場合や、ｹｰﾌﾞﾙを短くして使用するには、必要に応じて光ﾌｧｲﾊﾞｰを切る事が出来ます(L 型ｺﾈｸﾀ側の光ﾌｧｲﾊﾞｰを切断する場合は、弊社ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの『TOP ＞ ﾃｸﾆｶﾙｶﾞｲﾄﾞ ＞ L 型光ｹｰﾌﾞﾙ分解組立』にて公開しております『L 型ｺﾈｸﾀ仕様変更手順書』をご参照下さい)。



- 光 D ｹｰﾌﾞﾙの切断には、ｶﾐｿﾘやｶｯﾀｰﾅｲﾌ等、鋭利な刃物を使って下さい。
  切断の際、光 D ｹｰﾌﾞﾙの中心にある光ﾌｧｲﾊﾞｰの切断面に凹凸が出来ると、光信号が伝わり難くなります。切断前の状態よりも断面の凹凸が酷くなった場合や、切断後に信号が伝わり難くなった場合は、切断作業をやり直して下さい。

各作業等を行うに当たって　：

- 本書で説明を行っている「各作業」等は、ﾌﾟﾛﾃｸﾀの製造元であるｷﾔﾉﾝ/ｷﾔﾉﾝ販売、富士ﾌｨﾙﾑが関知している物ではありません。「各作業」等についてのご質問、お問合せ等は、決してｷﾔﾉﾝ/ｷﾔﾉﾝ販売、富士ﾌｨﾙﾑに行わないで下さい。また、同様の理由により、「各作業」等を行う場合、お客様ご自身が全ての責任を負う必要がある事をご確認下さい。
- 「各作業」等を行う事によって、ﾌﾟﾛﾃｸﾀの保障期間内であっても、*ｷﾔﾉﾝ/ｷﾔﾉﾝ販売、富士ﾌｨﾙﾑの無償修理を受ける事が出来なくなる可能性があります。*予めご了承下さい。ﾌﾟﾛﾃｸﾀの保証条項詳細につきましては、各ﾌﾟﾛﾃｸﾀ付属の使用説明書/保証書をご確認下さい。

・ 万一、「各作業」等を行う事によって不具合(ﾌﾟﾛﾃｸﾀ本体、ﾌﾟﾛﾃｸﾀ付属品、ﾌﾟﾛﾃｸﾀ内にｾｯﾄするｶﾒﾗ本体等の不具合等)が生じた場合、弊社は一切、その責任を負いかねます。
・ 万一、「各作業」等を行う事によって浸水等の不具合が生じ、この不具合に起因する、付随的損害(撮影に要した諸費用及び撮影により得べかりし利益の喪失等)が発生した場合においても、弊社は一切、その責任を負いかねます。
・ ***以上の注意事項、及び補償条項について、ご納得頂けない場合には、「各作業」等を行わないで下さい。未使用の場合に限り、関連製品の返品を受け付けます。詳細につきましては、弊社までお問合せ下さい。***

ｵﾌﾟｼｮﾝについて　：

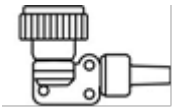
・ *L 型光 D ｹｰﾌﾞﾙ* ¥6,200-(税抜)
製品内訳画像中の①です。対応するｽﾄﾛﾎﾞ 2 台と、ｷｬｯﾌﾟ W22/W27/W30/W31/W44/W49/W50・遮光板ﾕﾆｯﾄ本体とを直接接続する際、追加で必要となります。

・ *交換用光ﾌｧｲﾊﾞｰ・L 型光 D ｹｰﾌﾞﾙ/L 型光ｹｰﾌﾞﾙ M 用* ¥4,000-(税抜)
製品内訳画像中の、①からｽﾄﾛﾎﾞ取付用のｺﾈｸﾀを除いた物です。

・ *ｸﾘｱﾌｫﾄﾌｨﾙﾑ 光 D ｹｰﾌﾞﾙ・ｷｬｯﾌﾟ 3/W3/W22/W27/W29/W33/W34/W36 ｾｯﾄ用* ¥1,500-(税抜)
製品内訳画像中の、⑦、⑧、及び⑨のｾｯﾄです。

・ *ｷｬｯﾌﾟ W27/W44/W50・遮光板ﾕﾆｯﾄ(予備部品付)* ¥3,800-(税抜)
製品内訳画像中の、②、③、④、⑤、及び⑥のｾｯﾄです。

・ *ｽﾄﾛﾎﾞ側 L 型ｺﾈｸﾀｷｯﾄ(ﾜｲﾔﾚｽ対応)　[保守部品]* ¥2,500-(税抜)
製品内訳図中の、①から光ﾌｧｲﾊﾞｰと除いたｺﾈｸﾀﾕﾆｯﾄの交換ｷｯﾄです。



・ *ｾﾝｻｰﾌﾟﾗｸﾞ・ﾜｲﾔﾚｽ対応　[保守部品]* ¥600-(税抜)
本製品に標準装備されている、ﾜｲﾔﾚｽ〝対応〟ｽﾄﾛﾎﾞ用のｾﾝｻｰﾌﾟﾗｸﾞです。

・ *ｾﾝｻｰﾌﾟﾗｸﾞ・ﾜｲﾔﾚｽ非対応　[保守部品]* ¥600-(税抜)
ﾜｲﾔﾚｽ〝非対応〟ｽﾄﾛﾎﾞ用のｾﾝｻｰﾌﾟﾗｸﾞです。本製品を、ﾜｲﾔﾚｽ〝非対応〟ｽﾄﾛﾎﾞ(本書内「接続対応ｽﾄﾛﾎﾞ」の項参照)に使用する場合に、本製品のｾﾝｻｰﾌﾟﾗｸﾞ・ﾜｲﾔﾚｽ対応と交換します。

有限会社 ｲﾉﾝ　〒247-0061 神奈川県鎌倉市台 2-18-9
Tel. 0467-48-2174 / Fax. 0467-48-2178
E-mail support@inon.co.jp / URL http://www.inon.co.jp/
2018 年 5 月

※ 外部ｽﾄﾛﾎﾞを使用する際の注意点、特に、(D)接続(遮光板/ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑ不使用)で外部ｽﾄﾛﾎﾞを使用する際には・・・

上述の(D)接続にて、外部ｽﾄﾛﾎﾞを(ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞのｽﾚｰﾌﾞｽﾄﾛﾎﾞとして)使用する場合や、他の外部ｽﾄﾛﾎﾞと組み合わせて 2 灯以上の増灯を行う場合、撮影条件によっては、得られる***画像がｵｰﾊﾞｰとなる可能性があります***。

この現象は、(ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞを含め)多灯とする事でｽﾄﾛﾎﾞｼｽﾃﾑ合計の最小発光光量が大きくなり、調光範囲の最短側が長くなってしまう事に起因します。***特に、特定の(内蔵ｽﾄﾛﾎﾞの最小発光光量が比較的大きい)ｶﾒﾗで、遮光板、或いはｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑを使用せずに増灯を行い、最短撮影距離付近の撮影を行った場合、この現象が顕著に表れます***(お手元のｶﾒﾗの最小発光光量は、ｶﾒﾗ単体で最短撮影距離付近の内蔵ｽﾄﾛﾎﾞ撮影を行いご確認下さい)。以下の対策を行う事で、適正露出とする事が出来ます。ご検討下さい。

- **(A)、(B)、或いは(C)接続で使用する**
- **ｶﾒﾗの絞りをより絞った状態に変更する**
- **ｽﾄﾛﾎﾞの位置を被写体から遠ざける**
- **外部ｽﾄﾛﾎﾞに減光板等を取り付け、光量を落とす[対応する場合のみ/外部ｽﾄﾛﾎﾞ付属の使用説明書をご確認下さい。]**

また、この接続方法では、ｶﾒﾗ内蔵ｽﾄﾛﾎﾞの光が完全に遮光されない為、ﾚﾝｽﾞ前のｺﾞﾐ/浮遊物に可視光成分が反射して、***ﾏﾘﾝｽﾉｰ現象が発生しやすくなる可能性があります***。ご留意下さい。

※ ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑを用いないで内蔵ｽﾄﾛﾎﾞを発光させ、ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄﾚﾝｽﾞをご使用の際には・・・

ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑを用いずに、ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄﾚﾝｽﾞを取り付けた状態で内蔵ｽﾄﾛﾎﾞを発光させた場合、撮影条件、ｶﾒﾗ/ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ/ﾏｳﾝﾄﾍﾞｰｽ/ﾚﾝｽﾞｱﾀﾞﾌﾟﾀｰﾍﾞｰｽの組み合わせ等によっては、得られる***画像にｺﾞｰｽﾄ/ﾌﾚｱが発生する可能性があります***。

この現象は、透明なﾊｳｼﾞﾝｸﾞを通過したり、ﾚﾝｽﾞﾎﾟｰﾄ内部を通過したりした内蔵ｽﾄﾛﾎﾞ光が、ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄﾚﾝｽﾞのﾊｳｼﾞﾝｸﾞ取り付け部側から進入/反射し、有害光として写り込む事に起因します。この様な現象が発生する場合には、***ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑを用いた外部ｽﾄﾛﾎﾞ増灯をお勧め致します。ｸﾘｱﾌｫﾄｼｽﾃﾑを用いない内蔵ｽﾄﾛﾎﾞのみでの撮影はお勧め致しません***。止むを得ず内蔵ｽﾄﾛﾎﾞのみでの撮影を行われる場合には、ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄﾚﾝｽﾞ取り付け部側からの有害光の進入を防ぐ様、注意深く遮光を行う事により、ｺﾞｰｽﾄ/ﾌﾚｱの発生を低減出来る可能性があります。ご検討下さい。**[この作業を行う場合、必ず「各作業等を行うに当たって」をご確認頂き、内容にご同意下さい]**